



精神障がい者へのサービス を通しての提言

社会福祉法人妻有福祉会
障がい者地域生活支援センターエンゼル妻有
上村 徹

① 妻有福祉会の事業概要と障がい者福祉事業

★高齢部門(5拠点)

- ・本部 ・養護老人ホーム妻有荘 ・平成園 ・アップル ・エスポワール
(養護老人ホーム、通所・訪問・居宅介護、包括支援センター、老人福祉センター など)

★障がい部門(3拠点)

- ・障がい福祉サービス事業所エンゼル妻有 ・障がい者地域生活支援センターエンゼル妻有 ・十日町市身体障がい者福祉センター
(宿泊型自立訓練、就労支援、相談支援、地域活動支援、身体障がい者センター など)

② エンゼル妻有の現状と課題

高山の 障害福祉サービス事業所エンゼル妻有(障福エンゼル)


- ・宿泊型自立訓練(定員18名) ☞ 常時定員に満たない、故に ⇒ 要定員の見直し
 - 他に5事業を実施、いずれも基準ぎりぎりの職員数の配置
 - 給付費収入の減少
- ・就労継続支援B型(定員16名) ☞ 受託作業量の減少、不安定、故に ⇒ 要自主製品の開発
 - 利用者工賃の減少

本町2の 障がい者地域生活支援センターエンゼル妻有(支援エンゼル)

- ・地域活動支援センター(定員20名) ☞ コロナ禍の影響、故に ⇒ 要活動と行事等の制限
 - 来所制限などによる電話相談件数の倍増
- ・相談支援事業(基本相談・特定相談) ☞ 脆弱な相談支援体制、故に ⇒ 要相談支援体制の強化
 - 相談支援専門員の人材不足による業務過多
 - 不十分な相談対応

③ 中条第二病院 入院病棟閉鎖の影響と現状

○ メンタルケア中条の通院者

- ・大体の方が2か月分の処方箋で、次回の診察日がわからない
- ・病状悪化のとき  薬及び注射療法もなかなか改善せず(よくよくにならないと入院とはならない)
- ・入院は市外の遠方の病院で、多少の症状改善が見られれば即退院

○ ご家族の苦悩

“入院できず仕方ないから言うことを聞け”、“約束を守れ”、“きちんと寝ろ”  ご家族は入院には頼れないというご認識

④ 相談支援体制の課題と今後の展望

・基本相談

相談支援件数と対応時間の増大(変化のある利用者多い)

・特定相談(サービス等利用計画・モニタリング)

計画作成とモニタリングが効率的にできない(他の業務に時間かかる)

2つの相談事業所、現相談支援専門員の員数では対応が不十分

⇒相談支援専門員の増員、基幹相談支援センターの機能強化、特定相談支援事業所の新規立ち上げ

⑤ サービス提供から見える精神障がい福祉サービスのこれからの姿

- ・高齡化の問題

障がい者も高齡化が進んでいる
少ない老後の住まいの選択肢

- ・地域共生社会の実現

高齡部門、障がい部門の連携
国の方針、包括的に「我が事」「丸ごと」

⑥ 法人運営上の課題と提言（法人から行政への訴え）

- ・変わらない委託料、変わらない十日町市の相談支援体制
 - ⇒15年来変わらない委託費で、相談員増員分の人件費は法人の持ち出し
 - ⇒十日町市の相談支援体制の検討を数年来重ねるも進展がない
- ・最後に、、「地域共生社会」の実現
「包括的な相談支援体制」の早期実現を願う

ありがとうございました。 <(_ _)>